

1. 業務概要

業務名：岩崎川堤防道路基本構想策定業務

業務実施期間：平成25年7月4日～平成26年3月20日

業務の目的：岩崎川は、天白川とあわせて日進市の貴重な水辺空間である。

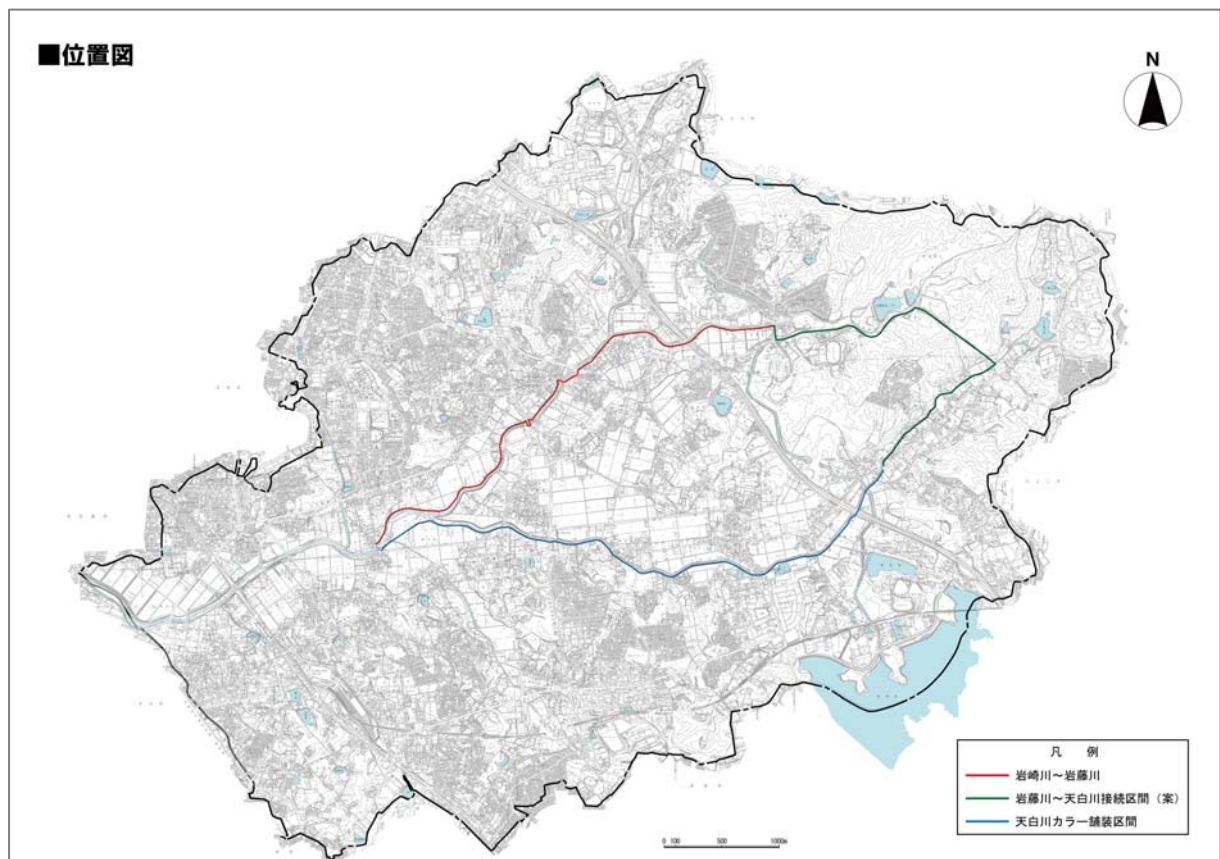
第5次日進市総合計画の将来都市像は「いつまでも暮らしやすい みどりの住環境都市」としており、日進市では豊かな自然と調和した魅力あふれる住環境都市を目指している。

第5次日進市総合計画の基本目標のひとつである『快適で利便性の高い持続可能な都市づくり』の施策の中で、天白川や岩崎川は「歩行者・自転車ネットワークの構築」の対象となっている。

また、日進市環境計画では、源流域元気プロジェクト等のプロジェクトの対象河川となっており、都市計画マスタープラン及び緑の基本計画では、水と緑の軸として位置づけされている。

本調査は、既存の天白川沿いのウォーキングコースとの連携を視野に入れつつ、岩崎川沿いに堤防道路ネットワークを構築するために現況調査や河川構造、制約条件等について整理し、ルート選定を主とした基本構想（案）を作成することを目的とする。

業務場所：下記位置図



2. 上位計画・関連計画

岩崎川堤防道路の計画区域に係わる上位計画・関連計画について、以下に整理した。

第5次日進市総合計画の将来都市像は「いつまでも暮らしやすい みどりの住環境都市」としており、日進市では豊かな自然と調和した魅力あふれる住環境都市を目指している。

また、同計画では、基本目標のひとつである『快適で利便性の高い持続可能な都市づくり』の施策の中で、天白川や岩崎川は「歩行者・自転車ネットワークの構築」の対象となっている。

日進市環境計画では、源流域元気プロジェクト等のプロジェクトの対象河川となっており、都市計画マスタープラン及び緑の基本計画では、水と緑の軸として位置づけされている。

このように市の上位計画・関連計画において、岩崎川堤防道路は重要な位置づけがされている。

(1) 第5次日進市総合計画 平成23年度～平成32年度（平成23年3月）

①基本構想

【ネットワーク軸】

●水と緑の軸

- ・天白川、岩崎川の河川沿いに、田園等の自然景観を生かした散策路や自転車道等を整備し、市民の健康づくりやレクリエーション及び通勤・通学等に活用できる、歩行者・自転車ネットワークとしての水と緑の軸を形成します。

②基本目標 快適で利便性の高い持続可能な都市づくり

【現状と課題】

- ・日常的な運動による生活習慣病対策等の健康に対する意識が高まっていることから、ウォーキング、ジョギング志向が高まっており、安全にかつ快適に歩行者が移動できる歩道の整備が求められています。

【施策の主な内容】

●歩行者・自転車ネットワークの形成

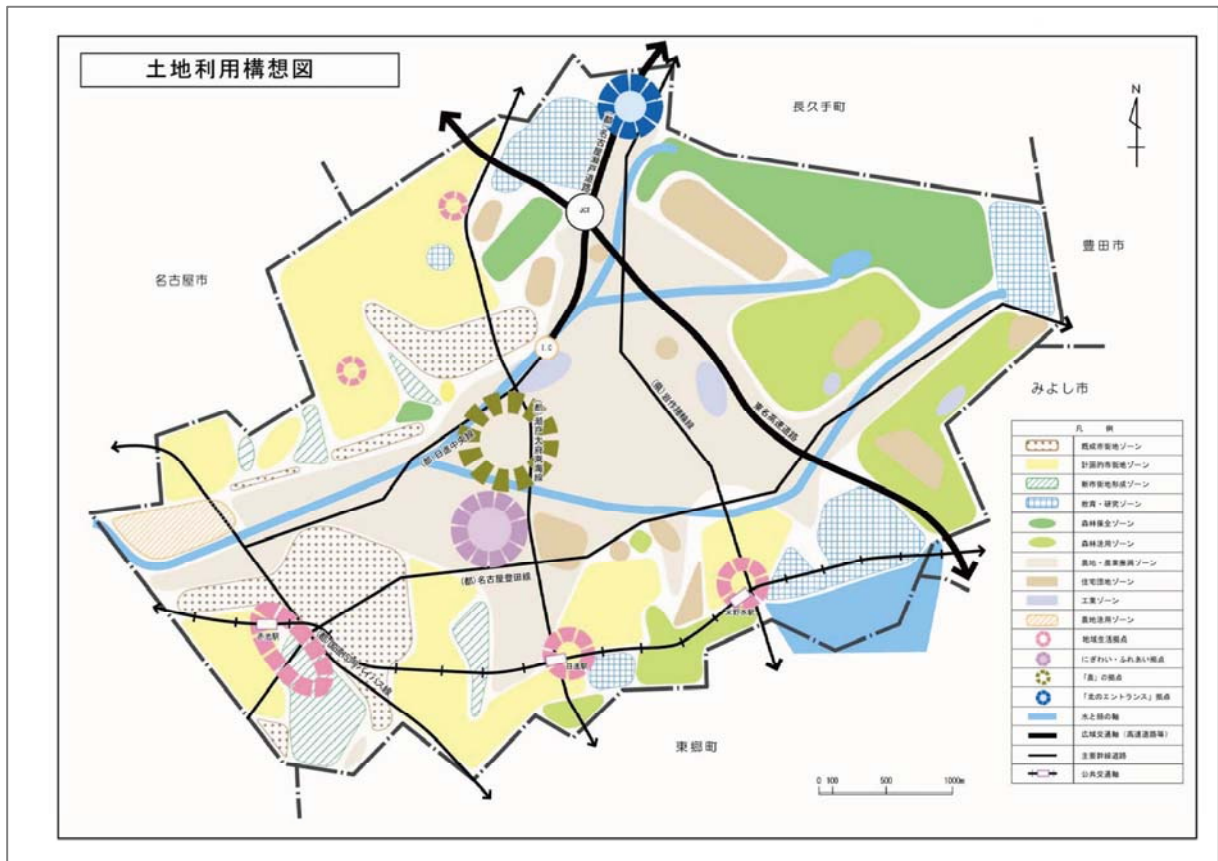
◆歩行者・自転車ネットワークの構築

- ・天白川・岩崎川堤防道路や（都）日進中央線の未利用地を有効に活用した散策路及び自転車道の整備を行い、自然環境を生かした歩行者・自転車ネットワークを構築します。天白川・岩崎川からなる「水と緑の軸」や、これとつながる幹線道路の歩道空間を活用して、快適な移動空間を有する歩行者・自転車ネットワークの形成を図ります。また、これと連動しながら、「憩いの場」や「にぎわい創出の場」等の確保の検討を進めます。

●公園・緑地等の整備

◆水と緑のネットワーク形成

- ・天白川、岩崎川等について、治水機能を維持しつつ、自然環境に配慮した散策路を整備します。



(2) 日進市都市マスタープラン（平成 23 年 3 月）

①現状特性からみた課題

【日進の「緑」の視点からの課題】

●河川・公園の整備に関する課題

◆自然や景観の特性を活かした水と緑のネットワーク等の形成

- ・天白川をはじめ本市を東西に貫く河川は景観上の主軸であるとともに、本市における緑の連続性を確保していく上での貴重な資源である。これらの河川整備にあたっては、比較的自然護岸が多く残された本市の河川の特性を活かしながら、歩行者・自転車が安全・快適に移動できる機能も備えた水と緑のネットワーク形成を進めることが課題である。

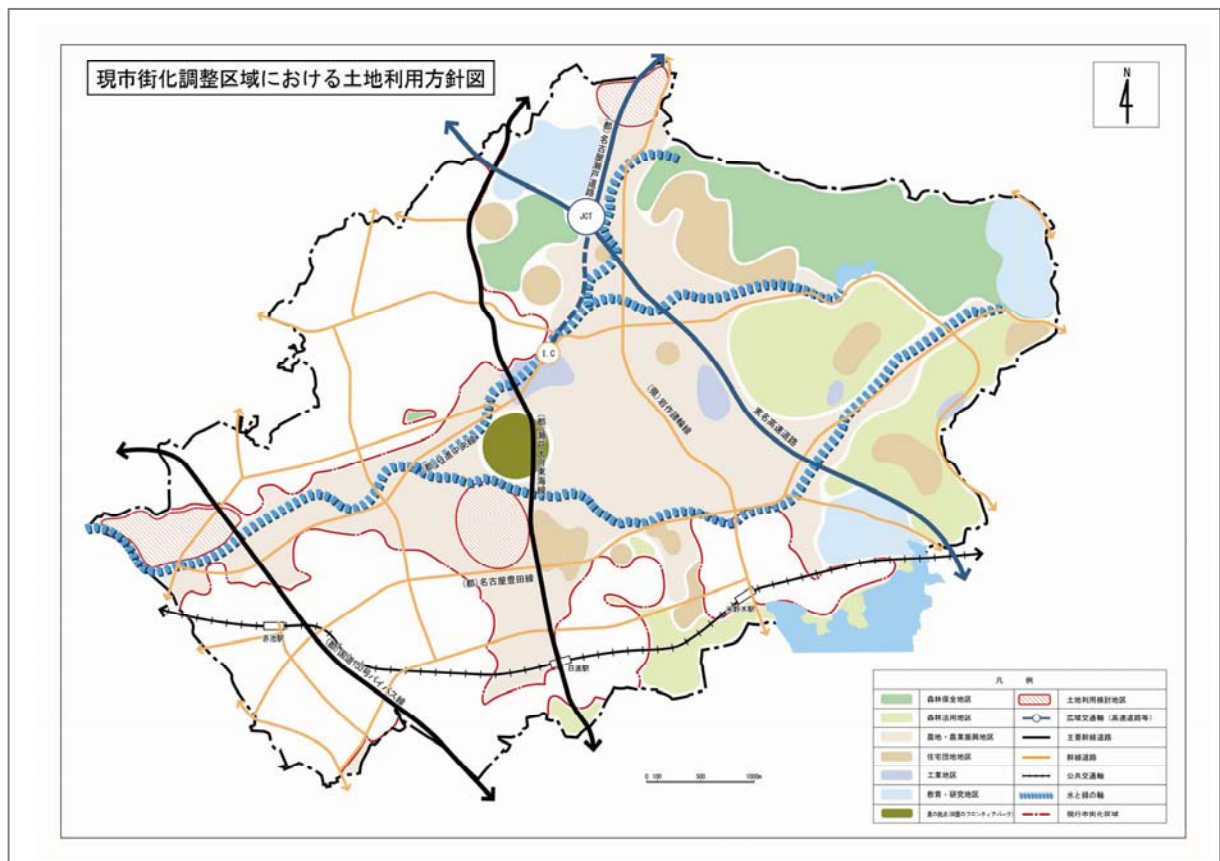
②都市交通施設に関する方針

【歩行者・自転車ネットワーク】

天白川・岩崎川からなる「水と緑の軸」やこれとつながる幹線道路の歩道空間を活用し、快適な移動空間を有する歩行者・自転車ネットワークの形成を図る。合わせて、これと連動しながら、憩いの場やにぎわい創出の場となるような“たまり空間”等の確保を検討する。

●具体的な整備方針

- ・天白川及び岩崎川については、堤防道路を活用した歩行者・自転車ネットワークの整備を推進する。
- ・歩行者・自転車ネットワーク沿いにおけるポケットパーク整備や空き地等を活用した“たまり空間”の確保を検討する。



(3) 日進市緑の基本計画（平成 23 年 3 月）

① 緑の課題

【緑で繋ぐ】

市民が徒歩や自転車で安心して移動し、散策できるように、市街地における緑を連続させて、水と緑のネットワーク化を図る必要がある。

- ・道路の歩道、河川の堤防、公共公益施設等、緑の点と線を繋ぐことによる水と緑のネットワーク化。

② 緑の将来像

【基本方針】

●水と緑を生かした潤いある水辺環境の創造

河川やため池は市民の身近な自然環境であるとともに、さまざまな動植物の生息地であるため、その貴重な水辺環境・景観の保全・活用を図る。特に天白川、岩崎川については、本市の「水と緑の環境軸」として位置付けて治水機能を維持しつつ自然環境に配慮した有効活用を図る。

- ・天白川、岩崎川、愛知用水沿い、愛知池等に散策路や自然とふれあう拠点を要所に確保し、散策路のネットワークを充実。

【水と緑の将来構造】

●水と緑の軸

- ・人や多くの動植物が共生し、本市の自然環境の骨格を形成する空間であり、安心安全に散策する中で自然に触れ合える環境軸。

③緑地配置及び都市緑化に関する計画

【環境保全機能】

●都市環境負荷の軽減に役立つ緑

- ・岩崎川、天白川、三本木川等の市を横断する河川は、周辺の農地とともに風の通り道として、またヒートアイランド現象の緩和等都市環境負荷の軽減に役立っていると考えられ、保全を図る。

【レクリエーション機能】

●広域的なレクリエーション空間要素としての緑

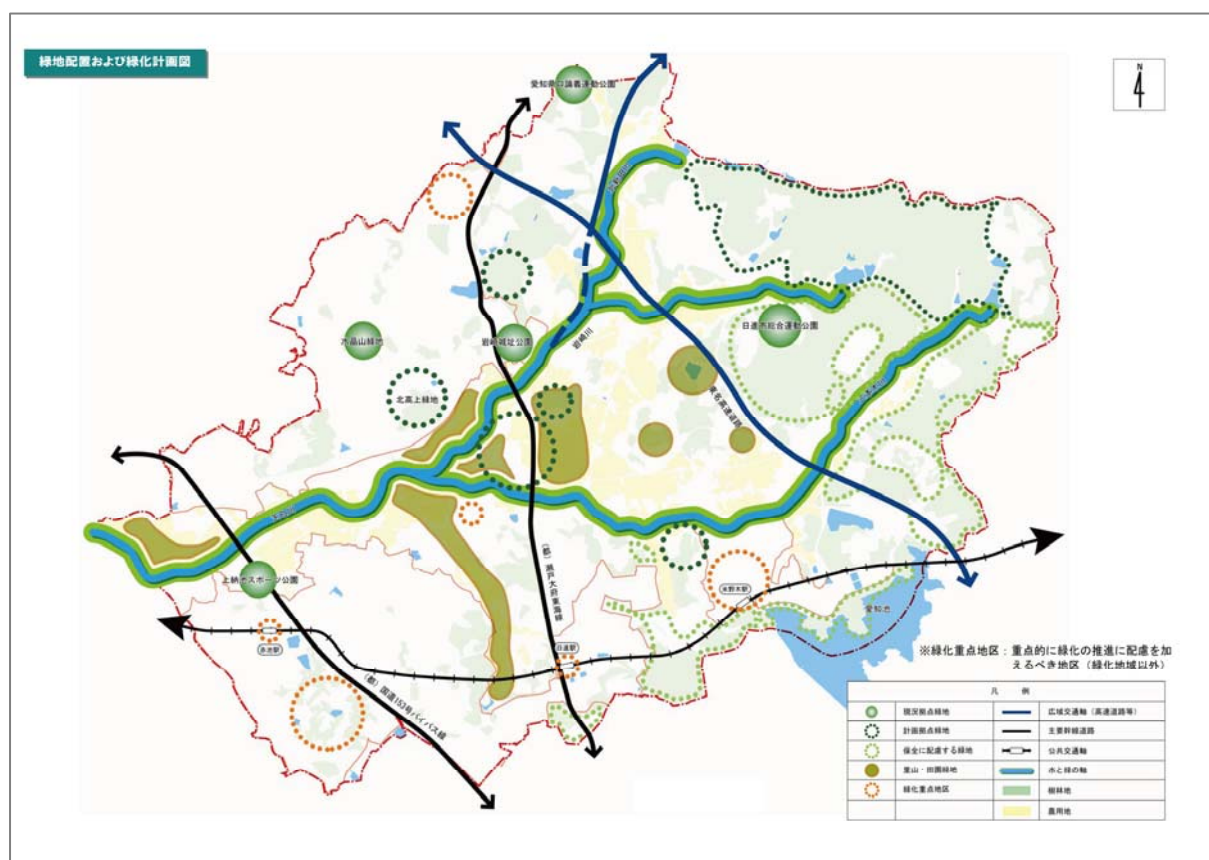
- ・市内を横断する天白川、岩崎川、折戸川、三本木川やため池等の水辺空間については、身近に水に親しむことができる場所としての整備を検討し、散策できる道づくりを推進する。

【緑地配置及び緑化計画】

●水と緑の軸

◆水と緑の軸の形成を図り、散策することが楽しいまちを創出する

- ・天白川、岩崎川及びこれら河川沿線の農地、田園フロンティアパーク拠点とにぎわい・ふれあい拠点と日進駅を結ぶ軸を、水と緑の軸と位置付け、森林や公園等の緑の拠点を活用しながら、緑道や歩行者道などを整備し、水と緑の軸を形成する。



④緑地保全及び緑化推進のための施策展開

【緑でつなぐ】

●散策路ネットワークの創出

◆水辺と緑空間のネットワーク化による散策路の創出

- ・天白川、岩崎川、愛知用水沿い等に散策路や自然とふれあう拠点を要所に確保し、散策路ネットワークの充実を図る。

◆散策路沿いのポケットパーク整備の検討

- ・水辺、緑地、公共施設等を有機的につなぎ、歩行者が安全・安心して通行できる散策路ネットワークを整備中である。今後、さらにネットワーク沿いに、小広場（休憩スペース）・小公園を配置することにより、歩いていける身近な公園の充実を図る。

（４）市役所周辺地域整備計画基本計画（平成 25 年 3 月）

①まちづくりの方針

【歩行者を優先した移動空間づくりと全市的なネットワーク化】

地区に来訪する自動車交通の流れを計画的にコントロールし、歩行者や自転車が安心して利用できる移動空間を構築します。

その移動空間の骨格として、区域内を縦横にネットワークする歩行者・自転車軸を配置します。そして、この区域内の歩行者・自転車軸を天白川等の遊歩道につなげることで市域全体に広がる歩行者・自転車ネットワークを形成します。

【歩きたくなる環境づくり】

にぎわいの核となる仕掛けづくり及び当該地域内での歩行者・自転車ネットワークの形成といった、にぎわい創出のためのソフト的な取組とハード的な整備を一体的に進めるとともに、公共施設群が公園的空間の中に立地し、随所で四季折々の草花が楽しめる環境を整えることにより、市民が歩きたくなる環境づくりを進めます。

②基本計画の策定

【歩行者・自転車ネットワークの形成】

市内各所から当該地域へアクセスしやすくするための歩行者・自転車ネットワークの形成に向け、既存の道路の修景整備（カラー舗装化）や岩崎川の堤防を活用した遊歩道の整備を進めます。

◆利用促進施策の展開例

- ・マラソン・ジョギング・ウォーキングコースの設置
- ・健康の道づくり（健康遊具の設置）
- ・ペットの散歩コースの設置
- ・カロリー案内板の設置
- ・各公共施設間の移動手段となるレンタサイクルの導入（レンタサイクルステーションの設置）
- ・歩行者・自転車用案内板（サイン）の設置
- ・ポケットパーク（ベンチ、植栽、花壇等）の整備 等

(5) 日進市環境基本計画（平成 21 年 3 月改訂）

①源流域元気プロジェクト

【ねらいや効果】

「日進市全体が大切な天白川の源流域です」。この少数派の意見が多数派の常識へと転換させていくことをめざしながら、市内の川が源流らしいきれいな川になるように取り組みます。

【具体的な進め方】

- ・河川愛護活動を育む
- ・河川・ため池に関する調査を行う
- ・川を知り、川を楽しむ
- ・源流域を元気にするための手法を研究し実践する
- ・水辺の環境を守るための活動の輪を広げる

【実施場所】

天白川、その他の日進市内のあらゆる水域

②みどりいっぱいプロジェクト

【ねらいや効果】

人や小動物にやさしい緑の環境を豊かにするために、今ある緑を保全し、緑を増やす取り組みを実施します。そのことが、ヒートアイランド防止を積極的に進めることとなります。

【具体的な進め方】

- ・イベントなどを通じて緑に対する意識を高める
- ・みんなが憩える緑道をつくり育む
- ・緑のネットワーク化を進める

【実施場所】

日進市全域の家庭、公共用地、事業所のできる所から

(6) 二級河川天白川水系 河川整備計画（平成 21 年 3 月 24 日）

①河川整備計画の目標に関する事項

【対象期間】

本河川整備計画の対象期間は概ね 30 年とする。

【河川環境の整備と保全に関する目標】

河川環境の整備と保全に関しては、上流域に森林や水田等の里地の自然が残されていることや、中下流部では都市河川でありながら、自然環境を有し、地域住民が憩うことができる貴重なオープンスペースとなっていることなどを踏まえ、治水との調和を図りつつ、河川環境の整備と保全に努めるとともに、関係機関や地域住民と連携しながら、川づくりを推進する。

●川とふれあえる場の維持・形成

川とふれあえる場の維持・形成については、散歩、ジョギング、釣りなど身近に利用されている状況、名古屋市及び日進市の公園やサイクリングロードなどの計画、「名古屋市天白区水辺協議会」等の川での自然体験活動や、地域間交流の実施状況を踏まえ、川とのふれあい、親しみやすく潤いのある河川空間を、関係機関や地域住民と連携して、維持・形成に努める。

②河川の整備の実施に関する事項

天白川上流植田川合流点から岩崎川合流点までの約 6.0km 区間においては、洪水時の水位の低下、支川の排水性の向上を図るために、河床掘削、必要に応じて堤防強化の整備及び橋梁改築を行う。

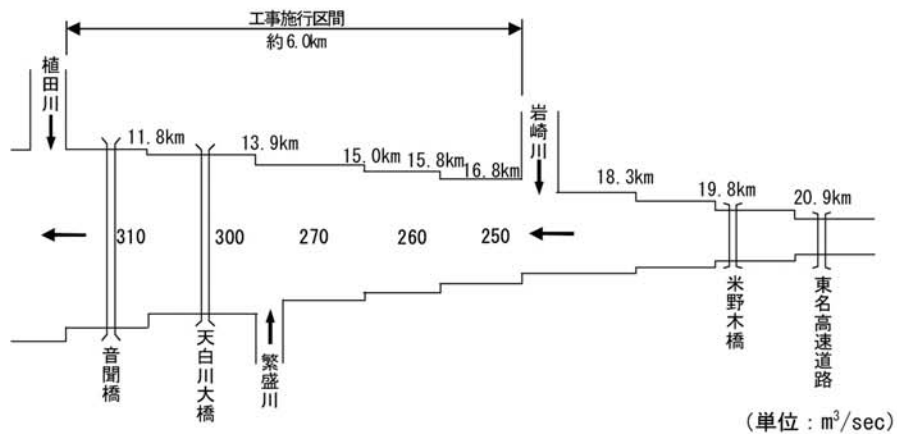


図-13 河川整備計画の目標とする流量配分図 (天白川上流※)

※天白川本川の植田川合流点から法河川上流端までのこと

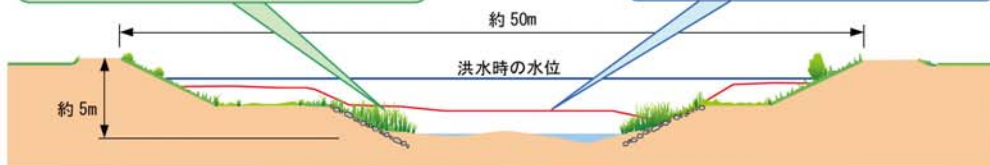
【自然環境】
魚類の生息・生育環境を拡大するため、魚道等の整備に努める。

【景観】
田園風景と調和した水辺空間の維持・形成。



【自然環境】
動植物の生息・生育環境に配慮し、水際や河床形状が多様となるように努める。

【治水】
川底を掘り下げて洪水を安全に流す。



●環境キーワード
ヨシ等の水際植生、ススキやチガヤ等の堤防植生の保全・再生
メダカ、オイカワ等の魚類のえさ場、すみか、産卵場の確保

— 現在の断面

図-14 天白川上流イメージ図 (16.8km 岩崎川合流点付近)

※イメージ図は、必要に応じて変更する場合があります。